

議事概要 / 第5回協議会 / 釧路交通圏タクシー特定地域協議会

日時：平成24年2月22日 10:30～11:30

場所：釧路運輸支局 2階会議室

1 第5回協議会

1.1 開始挨拶（会長・要旨）

- ・ 前回に引き続き地域計画の進捗状況とタクシーの現状について説明する。共通認識として各委員が共有して欲しい。
- ・ 併せて、今後の活性化のためいくつかの取組み事例を紹介する。助言等をいただきたい。

1.2 第1号議事「特定事業の進捗状況について」

1.2.1 事務局提案

- ・ 事務局長より、「議題1 特定事業の進捗状況について」について、資料1から10までを用いて説明。

1.2.2 質疑

1.2.2.1 座長

- ・ 各社・各事業者のご協力によって、来月末をもって適正車両の範囲内をクリアする。クリアするのは全道では釧路と旭川だけである。全国的に見ても非常に少なく、クリアする地域数は一桁台。各事業者が日々の経営努力をされている中で、英断した結果このような結果が出たのは、非常に大きいのではないかと思う。
- ・ 委員各位の意見を求めたい。

1.2.2.2 タクシー協会

- ・ 減車がどの程度売り上げに影響しているかと言うと、待遇改善にまでいかないというのが現状である。会社的には前年対比を割り込んでおり、大変厳しい状況。
- ・ 乗務員の高齢化が大きい。(まりも交通では)60歳以上が半分という状況。あと5年したら、新入社員が入らない限り、黙っていても考えなければならぬという時期に来ている。

- ・ 計画的には5年計画でも大丈夫ということだが、乗務員が集まらないことにはどうなるのか。やはり賃金体系が問題であり、改善されなければ淘汰されざるを得ない状況と考えている。

1.2.2.3 全自交釧路地域協議会

- ・ 警察に聞きたい。運転代行は車両の持ち主を運ぶだけと考えている。であれば、4人を乗せてあちらこちらに行くというのは、立派な白タク行為で法律違反ではないか。
- ・ それらがタクシーを利用してくれるならば多少は利益にもなる。代行には、我々と同じ法律の下に安心安全な輸送をしてほしい。
- ・ 代行は、保険にも入っているのかも分からない。代行に関してお客様の保険を使う・使わないというトラブルの実例も聞いている。
- ・ そのような白タク行為を根絶しなければ、タクシーの利益は増えないと思う。「タクシーは減車したが運転代行車は増える」では、何のために減車したか分からない。

1.2.2.4 警察

- ・ 違反に「なる・ならない」は、今ここでははっきりと回答出来ない。しかし、代行業者に対しては、警察としても立入調査を行い必要な指導等も与えている。個々の運転代行が違反になるのか事件となるのかは、今後警察署長とも協議をしたい。

1.2.2.5 座長

- ・ 委員の意見は、運転代行が減車の効果を脅かしている側面がある、ということによろしいか。

1.2.2.6 全自交釧路地域協議会

- ・ そのとおりでよろしい。

1.2.2.7 座長

- ・ 今の議論で共通認識を得たと考える。その前提で、今後どのような取組みが考えられるか議論をお願いしたい。
- ・ 先ず、事務局からいくつかの事例紹介をしたい。

1.3 第2号議事「今後の取組みについて」

1.3.1 事務局説明

- ・ 事務局長より、「議題2 今後の取組みについて」について、資料11から14までを用いて説明。

1.3.2 質疑

1.3.2.1 座長

- ・ 事務局からの説明を受けて、何か意見があればお願いしたい。

1.3.2.2 鉏根地区ハイヤー協会

- ・ 減車問題等あり大変厳しい数字にはなるが、お客様に不便を与えないように安心安全の協会を取り組んでいくしかないと考えている。
- ・ 少し心配なのは高齢化が進んでいること。利用者からは「あまり高齢者はよこさないでくれ」との正直な電話等もあるという状況である。業界に若い人を入れるのが大切で、やはり賃金等の問題はあがるが、前向きに対策を検討していきたい。高齢化が進んでお客様が安心できないと利用されない。

1.3.2.3 鉏路消費者協会

- ・ これからの鉏路の状況、人口面、高齢化といった面を考えると、今現在、バス事業が利用する市民としては十分ではない。バスの本数が少ない・使い勝手があまり良くないということもある。そのような面を補うため、先ほどの説明にあったような「コンビニクル」といったことをタクシー業者の方で何か考えて欲しいと思う。鉏路市民の利便性を高めるような、従来のタクシーのあり方とは異なる新しいことも考えて欲しいと考える。
- ・ 今現在、減車率が目標に達したと聞いたが、鉏路市民としてはタクシーを利用する分においては、それほど不自由を感じていないと思っている。ただ減車だけに頼るのではなく、公共交通の利便性を補ってもらえるようなことをやって頂ければありがたい。

1.3.2.4 座長

- ・ 今回は、公共交通のバス事業を補う新たな形態である「デマンド交通」を提案した。今の意見に対する意見を含め、他に意見等あればお願いしたい。

1.3.2.5 鉏路町商工会

- ・ 距離的に遠いところ、例えば鉏路町では奥地まで行くと距離がかさむ。

折り返して戻ってくることを考えると、その部分に飛行機のような早割や割引をする等は考えられないか。ただ戻って来るだけであることを考えれば、多少の割引は良いのではないかと思う。

1.3.2.6 全自交釧路地域協議会

- ・ 運賃をかなり安くすることでやってきている。先般、運賃の値上げを行い470円から530円にしたことで、ようやく人並みに生活できつつあると思っている。値引きは不利になると思っている。

1.3.2.7 釧路町商工会

- ・ 値引きということではない。各社が話し合い、「程度と範囲」を決めておき、早めの予約があれば割り引くようなことは考えられないのか。現実には、遠いところまで行ってもただ帰ってきてしまうだけなので、予約等があれば多少は良くなるのではないかと思ったので、提案した。

1.3.2.8 座長

- ・ 帰りが空車であることを考えると、有効利用となるし、効率化にもなる。今後業界として検討して欲しい。非常に良い案だと思う。

1.3.2.9 釧路市

- ・ 釧路市に公共交通活性化協議会というものがある。協議会で取り組んだもので、バスの赤字路線を乗合タクシーにしたという事例がある。その路線は阿寒町本町地区から布伏内地区までのものである。
- ・ 今まではバスで布伏内まで行っていたが、布伏内地区は過疎化・高齢化で乗客が居ない。協議会で赤字対策を議論したところ阿寒町本町から布伏内を乗合タクシーにしようという提案があり、実証実験をしたところそれなりの成果があった。一昨年の12月から、阿寒のハイヤー事業者が行う乗合タクシーに移行した。阿寒の本町から布伏内地区に行くという形で行っている。
- ・ 但し、乗客が一便当たり1~2人という乗客数であり、今後新年度に向けて新たな需要を確認しながら、便数を考えていくという作業をしていると考えている。これについては、事業者との契約も厳しい部分があるが、新しく国から補助金も出ることになったので、条件を出し合いながら、一つの試みとしてやっていきたい。
- ・ 釧路市としては高齢者の関係、合併があり広域の行政になり、公共交通の部分では厳しい地域もある。コンビニクル等、新たな提案も含め、今

後検討してまいりたい。

1.3.2.10 釧路町

- ・ 減車を実施しても、過去3年間をみると最低の状況になっていると分析されている。果たして今後どんな方向が有効なのかとなると、非常に難しい問題があると思う。車の導入等、色々な方策を試していかなければならないのかと思う。
- ・ さらに、引き続き活性化も話し合っていかなければ、問題は解決していかないのではないかと考えている。

1.3.2.11 座長

- ・ 更なる努力というか、減車ばかりではなく色々続けていかなければいけないという意見である。

1.3.2.12 釧路町消費者協会

- ・ 3年間の企業努力の結果、減車の成果がある程度出ていると思う。一方、その分代行業者が増えていくとどうなるかと考えると、この3年でどの程度増えたのか資料があれば良かったと思う。
- ・ 美原の町内会の集まりで、タクシーを利用する際に乗合わせることで費用を抑えたとの報道があった。釧路町にも老人の日に会合があるが、送迎が大変なことを理由に参加を辞めた事例がある。このような場合に「デマンド交通」があり、これを利用することは良いことだと考える。乗り合わせは、今後活用法があるかと思う。

1.3.2.13 座長

- ・ デマンドには、検討の余地があるのではないかと感じている。

1.3.2.14 釧路商工会議所

- ・ 先程の釧路市の話にあった「デマンド交通・乗合・公共バス」という組み合わせは大変興味深く聞いた。今後の活用に期待する。

1.3.2.15 釧根地区ハイヤー協会

- ・ 高齢化が進んできたことにどう応えるかという点では、バスの利便性が地域的にどのような状況か把握はしていないが、そういう所も参考にすると前向きに進めることが出来ると考えている。但し、縛られている部分はあるので難しいのは事実。

1.3.2.16 釧路個人タクシー協同組合

- ・ タクシーを減車したが、その分以上に介護タクシーが増えているのではないか。料金も車両規模も違うが、それを抜きにタクシーだけを減車するのは、少し意味合い的には違うのではないか。
- ・ 身体の不自由な方には、車両も良いから利用するのは分かる。しかし、それとタクシー会社の減車をリンクさせなければ、問題は解決しないのではないか。

1.3.2.17 座長

- ・ この問題は、目的も料金も異なり、棲み分けも違うので、なかなか難しいと思う。

1.3.2.18 釧路個人タクシー協同組合

- ・ 介護タクシーがない時代は、我々もそういったお客様を運んでいた。この部分が介護タクシーに流れてしまうと、法人がいくら身を削って頑張っても、あの当時の売上げにはならないと思う。(運賃の一部は)介護保険料から出ている部分もあり、小さな事業者としては太刀打ちが出来ないと懸念している。

1.3.2.19 座長

- ・ 介護タクシーの件は、今後の議論において議題になってくるものと思う。

1.3.2.20 釧路北交ハイヤー株式会社

- ・ 事業者は、採算に合うかということを第一に考えて商売していかなければならない。
- ・ 今の日本の経済状況、高齢化等を全体的に見ると特効薬はないと感じている。地域の現状を踏まえながら利用者ニーズに応え、少しでも運転手の収入がアップするようなところに、目を付けなければならないと思っている。とは言え、非常に難しいのが現状である。

1.3.2.21 全自交釧路地域協議会

- ・ 本来は企業努力が必要だ。併せて、運転手も努力しなければならない。
- ・ 減車と言うが、車両1台あたり乗務員は2.6人程度存在する。減車の際に発生するこれらの人員をどう扱うのかについては、企業努力するしかないと考えている。

- ・ 企業は、運転手と一緒にあってお客様の利便性を前向きに考えていかないと、利用されなくなると思っている。

1.3.2.22 座長

- ・ 減車は確かに厳しい。乗務員も辞めざるを得ない現実がある。非常に厳しいものがあると考えている。

1.3.2.23 釧路労働基準監督署

- ・ 運転者は労働者であり、監督署としては、労働条件・待遇改善という所に一番効果が現れて欲しいと考えている。
- ・ 状況説明では、旭川と釧路の交通圏が今年度末で適正な目標に到達見込みになるという良いニュースもあった。しかし、高齢化の問題もあり待遇改善にまでは至っていないという点は残念。
- ・ 監督署としては、最低賃金を含む法定労働条件の確保が最大の行政課題である。この点で、良い方向に進むことを期待している。

1.3.2.24 釧路方面本部

- ・ 高齢化により、重大事故・死亡事故の運転者（原因者）の中に占める高齢者の割合が増え続けている。
- ・ 幸いに、タクシーによる重大事故の発生は、こここのところあまりない。タクシーは「デイライト」も徹底しており、タクシー協会をはじめ各社の管理者からの指導が徹底されていると思う。引き続き徹底して欲しい。

1.3.2.25 座長

- ・ 議題1号、2号に対する新たな提案等もあり、全体を通して、状況の確認や提案の検討ができたと考えている。

1.4 第3号議事「その他」

1.4.1 事務局説明

- ・ 事務局長より今後の予定について、説明と提案。
- ・ 本年9月末に釧路交通圏に対する特定地域の認定期限を迎えるが、その際の処理について何ら予定が示されていない。このため、当面の状況が読めないことから次回の協議会に関し時期の提案が出来ない状況にある。
- ・ このことに対し承認を求めた。

1.4.2 質疑

- ・ (特段の異議なく承認される)

1.5 終了挨拶(会長)

- ・ (今回の審議に対する謝辞と、今後に向けての協力要請)

2 配付資料

- ・ 資料1 特定事業計画取組状況と事業再構築の進捗状況
- ・ 資料2 保有車両数の推移(釧路交通圏・法人)
- ・ 資料3 保有車両数の推移(全道特定地域・法人)
- ・ 資料4 釧路交通圏における運転手年齢構成推移
- ・ 資料5 釧路交通圏の法人タクシー日車営収等の推移
- ・ 資料6 釧路交通圏の法人タクシー車両数等の推移
- ・ 資料7 全道特定地域の法人タクシー日車営収等の推移
- ・ 資料8 釧路交通圏の法人タクシー実働日車当たりの実車キロの推移
- ・ 資料9 釧路交通圏の法人タクシー実働日車当たりの営業収入の推移
- ・ 資料10 釧路交通圏の法人タクシー実働日車当たり運送回数・輸送人員の推移
- ・ 資料11 EV・HV タクシーの導入状況
- ・ 資料12 釧路交通圏における安全・運転支援装備の導入状況
- ・ 資料13 自然の番人宣言の概要 (廃棄物不法投棄監視活動への協力)
- ・ 資料14 デマンド交通とは